

4. In-111-DTPA Cisternography の使用経験 について

武本 本久 有光 哲雄 石光 宏
松本 皓 西本 詮
(岡山大・脳神経外)

最近、新しく開発された In-111-DTPA を Cisternography に使用する機会を得た。従来行ってきた、Yb-169-DTPA Cisternography との比較検討と若干の文献の考察を加え報告した。Cisternography は In-111-DTPA 0.2~0.5mCi、腰椎穿刺により髄腔内投与後、時間を追って48時間後まで、gamma camera にて撮影した。脳腫瘍 4 例、NPH 8 例、水頭症 2 例、髄液漏 1 例、正常例 1 例の計16例について検査を行ったが、従来の Yb-169-DTPA と比べて、シンチグラム上差は認められなかった。In-111-DTPA は、生物学的半減期は、Yb-169-DTPA とほぼ同じであるが、物理学的半減期が2.81日と短いため、患者の尿廃棄および、腎機能低下患者における内部被曝線量が、ほとんど問題とならない。しかし、実際に検査を行う立場から考えると、入荷後直ちに使用しなければならないという不便な点がある。

5. Luteinizing hormone releasing hormone のラジオイムノアッセイ

大島 一洋 撫佐 公孝
山本 鈴代 斎藤 史郎
(徳島大・中央臨床検査)

LH-RH の分泌動態を明らかにするため、生体試料中の LH-RH のラジオイムノアッセイを確立した。

LH-RH-BDB-BSA 結合物で家兎を免疫すると、特異性の高い抗体がえられた。LH-RH の¹²⁵I による標識はクロラミン T 法で行い、Sephadex G-25 で精製した。血漿は低温下で分離し、酸性メタノールで抽出した(平均抽出率95%)。ラジオイムノアッセイにおける first incubation 時間は

48時間が適当で 3~1,000 pg の間で用量反応相関性が認められた。LH-RH 100~60 μ g を正常者に静注すると血漿 LH-RH 濃度は 1~3 分後に頂値に達し、半減期は 4~6 分であった。血漿 LH-RH 濃度は小児では 3 pg/ml 以下、正常成人では 20pg/ml 以下であるが、高年男子および閉経後婦人では高値をとるものが多い。正常月経周期を有する婦人では卵胞期や黄体期に比べて月経中間期に増加の傾向を示した。また、クロミフェンが LH-RH の分泌を刺激することも認めた。以上の成績は LH-RH 測定の臨床的有用性を示す。

6. ¹³¹I-T₃ レジンスポンジ摂取率の季節による 変動

森田 昌功
(鳥取健康管理所)

阿武 保郎 中村 良文 佐々木 勲
(鳥取大・放)

健康成人の血清について ¹³¹I-T₃ RSU (Triosorb 値) を冬季と夏季とで比較すると、at random の群でも、同一人で冬季と夏季の 2 回検査した群でも、男女ともに夏季の方が有意に高い。また Triosorb 値と ETR (effective thyroxine ratio) とを併行して測定すると、ETR も夏季の方が有意に高い。別の群で Triosorb 値と PBI を併行して検査すると、PBI はむしろ夏季のほうがやや低い傾向が見られた。

以上から夏季に Triosorb 値の高いことは、甲状腺ホルモンの分泌が高いと考えるよりも、夏季は Thyroxine の末梢の需要が少なく、Thyroxine 結合蛋白に Thyroxine がより多く結合されて、その結合余力が減少してこの様な結果を呈するのではないかと思われる。